

11月7日	木	13:00 ～ 15:00	<p><b>口腔ケア事業 研修後事後評価</b> 介護老人福祉施設 やまぼうし 7月から実施した口腔ケア研修が終了しました。事前評価を実施させていただいた入所者様42名に、3項目（舌圧・口腔内水分量・口腔内細菌数）の口腔内評価を実施しました。</p>
11月8日	金	13:00 ～ 15:00	<p><b>口腔ケア事業 研修後事後評価</b> 特別養護老人ホーム 南山苑 7月から実施した口腔ケア研修が終了しました。事前評価を実施させていただいた入所者様25名に、3項目（舌圧・口腔内水分量・口腔内細菌数）の口腔内評価を実施しました。</p>
12月3日	火	18:00 ～ 19:00	<p><b>2019年度第1回ナーシングセミナー</b> “災害”に関すること 「昨年度の台風による停電で困ったこと」 訪問看護ステーションなのはな 南 都萌子 「災害時の自施設の取り組み」 訪問看護ステーションはなぶさ 辻 尚子 医師・行政・在宅介護関係者・看護師・施設職員・病院相談員・・・計53名出席いただきました。 2名の先生方から、現場での問題と取り組み状況を報告いただきました。実際の現場での状況や取り組みを報告いただいたことで、自分の所属する事業所に不足していること、今後施設で取り組むべきこと、予測できる災害に対してできる準備と日頃の話し合いなど、自分のこととして捉え、前向きに考える機会となりました。</p> 
12月4日 12月5日	水 木		<p><b>口腔ケア事業 研修後事後評価</b> ひかり苑・天佳苑 8月から実施した口腔ケア研修が終了しました。事前評価を実施させていただいた入所者様ひかり苑45名・天佳苑42名に、3項目（舌圧・口腔内水分量・口腔内細菌数）の口腔内評価を実施しました。</p> 
12月13日	金	14:00 ～ 15:00	<p><b>診療所内カンファレンス 横田整形外科</b> 9名参加 5症例のカンファレンスを実施</p> <p>参加していた小林薬剤師から、「薬剤師として転倒をどうみるか？」という質問。 職種によって転倒の見方は異なる。横田先生は、整形外科医として転倒してからの患者を診察するという役割。薬剤師はポリファーマシーや転倒しにくい薬に変更するという提案など予防の観点でかかわることができる。血圧の薬でも転倒の誘因となる見方で患者様の話を聞く。先生は、浮き指や後方荷重の診断のためにモバイルピドスコブの活用と、包括や多職種が連携しながら予防強化に力をいれようとしている。</p>

<p>12月14日</p> <p>土</p>	<p>14:30 ～ 16:00</p>	<p><b>医療と介護の連携セミナー</b>                  講師：橋本市民病院脳神経外科部長 垣下浩二先生                  演題：「高齢者のてんかん」認知症と間違われやすい高齢者てんかん どう見極める                  参加者：医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネージャー、病院・施設・保健所職員、包括・・・等 合計79名出席                  先生は、てんかん症状は「けいれん」だけではありません。発見するのは、医師ではなく、日常傍にいる皆さまです。是非、日ごとと違うを見極め、正しく報告し、適切な治療につながることを期待いたします。・・・講演がありました。</p> 
<p>12月17日</p> <p>火</p>	<p>14:00 ～ 15:00</p>	<p><b>診療所内カンファレンス 梅本診療所</b> 8名参加                  3症例のカンファレンスを実施</p> <p>地域に根差した医療提供をされている先生は、患者様だけでなく、家族状況も理解されておられます。患者様の職歴や性格を踏まえ、この家族がどうあるべきかを検討していきます。家族の介護負担軽減や、今の年金額でどこで暮らすことがベストかまで考えてくれます。民生委員・有償ボランティアの活用・女人禁制の居酒屋サロン・・・初めて聞くことも多く収穫の多いカンファレンスです。</p>
<p>12月17日</p> <p>火</p>	<p>14:00 ～ 15:00</p>	<p><b>診療所内カンファレンス 前田医院</b> 11名参加                  5症例のカンファレンスを実施</p> <p>80歳代の女性 夫と二人暮らし 何度か繰り返される手術（悪性腫瘍ではない）老人性のうつではなく、とにかく意欲がない。下肢筋力も低下するばかり。ケアマネも訪問看護も根気よく関わっているが新しい取り組みは「イヤ」。人前で失敗することも嫌なのか、デイも「行かない」。ケアマネのプランも本人の“合意”が得られない。夫も困り果てている。このままでは・・・とカンファレンスに情報提供された。生きていく上での楽しみも持てず、目標も見失い・・・ただケアマネと訪問看護は拒否しない。参加者からは、両者を突破口にして、生活に生かせ継続できるリハビリの一つでもできるといいですね、とアドバイスがあった。</p>